

## 利用者本人調査結果（観察）

### <福祉型障害児入所施設>

#### 福祉型障害児入所施設 ぶどうの実

##### 【調査の概要】

福祉型障害児入所施設「ぶどうの実」は、入所定員 30 名で、幼児から 18 歳までの知的障害児を受け入れています。18 歳以上（過齢児）の入所者も数名います。ぶどうの実は、障害を理由に学校教育を受けられなかった子どもたちの教育の場として設立されました。知的障害があり、様々な事情で家庭生活が困難な子どものための生活の場を提供しています。個々の生活を大切に、他者を思いやり、協力するなど、対人関係の基本を学んでいます。学校へは、地域の学校（特別支援学校、小中学校特別支援学級）に施設の車の送迎で登下校しています。入所者の特性や年齢・性別を考慮した 4 ユニットのユニット体制を取っており、子どもと職員が日々生活する中で、子どもが意見を述べやすい雰囲気作りに努めています。施設でのルールや約束事については、ユニットごとに開催する「利用者自治会」で話し合う等、子どもの自律・自立生活に向けた日常的な生活支援を行っています。また、在宅の障害のある子どものために、様々な地域生活支援事業も行っています。本来なら利用者との面談する必要がありますが、コロナ禍の中、法人の関連施設での感染情報も受け、利用者との直接面談を控えました。利用者本人調査では、このような状況を考慮して、生活環境等の「観察調査」を採用して報告とさせていただきます。

##### <環境>

●当施設は、多くの知的障害者（児）就労・生活支援事業を運営している設置法人の社会福祉法人白根学園の本部と同じ敷地内にあります。平成 27 年に建て替えを行い、ぶどう色の可愛い外観に生まれ変わりました。施設は高台にあり、施設周辺には公園や学校・病院などがあり安心して生活できる環境です。施設前の大きな園庭では、子どもたちがボール遊びをしたり、走り回っている姿があり、敷地内で気分転換を図っていました。「ぶどうの実」は、いつでも外で遊べ、開放的で温かい施設です。

##### <状況>

●調査訪問時では、利用者の状況は年齢が 6 歳～24 歳、男性が 24 名で女性が 5 名、計 29 名が入所しています。また、28 名に療育手帳が交付されている状況です。児童の心身の状況については、医療的ケア（服薬等）が必要な利用者 25 名、被虐待経験がある利用者 17 名、意思疎通が困難な利用者 12 名、就学への配慮・支援が必要な利用者 24 名、家族（保護者）支援が必要な利用者 16 名、行動障害等がある利用者 11 名等であり、個別的な配慮や支援を必要とする多くの利用者が入所しています。

### <登下校の様子>

●学校は、幼児は施設内で日中保育、小中学生は特別支援学級、高校生は特別支援学校に通学しています。学校の登下校は、主に施設の車で職員が送迎しています。小学校が2か所・中学校が2か所・高校が5か所と数多くの学校に通学しており、朝・夕の登下校は、担当者のシフト表を作成し、職員が交代で利用者の送迎を行っています。高校生の中で自立度の高い利用者は、自身で公共交通機関を利用して登下校しています。

### <生活環境>

●「ぶどうの実」は、3階建ての建物で、1階・2階に4つのユニットを設け、1階フロアは「すこやか」・「かがやき」の2つのユニット、2階フロアは「はぐくみ」・「きらめき」の2つのユニットがあります。ユニットは、「行動障害が多い」、「穏やか」、「自立を目指す」、「女性」等、特性・年齢・性別等を考慮して分けています。3階には「ホール にじいろ」があり、カラオケやトランポリン等を設置して子どもたちの憩いの場になっています。ホールは「子ども食堂」や会議等でも活用し、地域にも貸し出しています。相談室・心理室も3階に設けられています。日常の支援については、職員の要員数は充実しており、食事・入浴・排泄の支援が必要な利用者は職員から手厚く支援を受けています。食事は、ユニットキッチン内に炊飯ジャー・スープジャー・電子レンジを備え、利用者に合わせた食事時間に温かい食事を提供しています。入浴は個浴であり、設備・支援も十分で、プライバシー保護にも配慮しています。利用者の単独外出に向けては手順を踏んで計画的に進め、お金の使い方・交通ルール・公共交通機関の利用方法・買い物のルール等を体験できる機会を設け、子どもたちが自律・自立生活に向けた生活支援が行われています。